

主日礼拝

2026年8月16日 10時20分～

司式:

奏楽:

「新しい人を着る」

《神の招き》

前奏 『イエス・キリスト、主にのみ頼みまつる』 J. パッヘルベル
招詞 コロサイの信徒への手紙3章10節
賛美歌 特別曲『闇を行く民は』

《神の言葉》

祈禱 聖霊の照らしを求める祈り
聖書 ミカ書6章1～8節 (旧約1434頁)
エフェソの信徒への手紙4章17～32節 (新約 349頁)

子ども説教
交読詩編 8編1～10節 (12頁)
賛美歌 195
説教 「新しい人を着る」 八木浩史牧師
祈禱
賛美歌 513

《感謝の応答》

信仰告白 使徒信条
転会式 543
献金
祈禱 献金当番
主の祈り (週報表紙、ホームページ掲載)

《派遣》

頌栄 26
祝福
報告
後奏

『ミカ書』6章は、神とイスラエルの関係を「法廷」の形で描いた箇所です。主は山々を証人として呼び、イスラエルに「わたしが何をしたのか」と問いかけます。出エジプトによる救い、モーセ、アロン、ミリアムを通して導いたことを思い起こさせ、神がイスラエルに恵みを与え続けてきたことを示します。それに対してイスラエルの民は、献げ物を増やせば神に喜ばれるのかと問い続けます。しかし神が求めているのは、いけにえの多さではありません。「公正を行い、慈しみを愛し、へりくだって、神と共に歩むこと」です。ここには、礼拝や宗教的行為だけではなく、日々の生活そのものを神への応答として生きる信仰が示されています。神の恵みによって生かされている者は、隣人に対して公正と慈しみを実践し、神の前にへりくだって歩むのです。

『エフェソの信徒への手紙』4章では、キリストを信じる者が、以前の生き方を捨て、新しい人として歩むよう勧めています。異邦人は神を知らないため、空しい思いに従い、心がかたくなになっていると語られます。しかしキリストに学んだ者は、古い人を脱ぎ捨て、神にかたどって造られた「新しい人」を着なければなりません。その具体的な姿として、偽りを捨てて真実を語ること、怒っても罪を犯さないこと、盗みをやめて働き、必要としている人に分け与えること、悪い言葉ではなく人を造り上げる言葉を語ることが示されます。また、聖霊を悲しませないようにし、恨み、憤り、怒り、わめき、冒涇などを捨て、互いに親切にし、憐れみ、赦し合うよう勧めます。そのようにして日々の生活をおくることが、キリストに生かされた者として「新しい人を着る」ということなのです。

礼拝当番: (役員:) 献金当番:
音響: 映像: